

---

## 災害時診療録の作成と試行—トリアージタグと入院診療録をつなぐもの—

(高田佳奈子、日本集団災害医学会誌 17: 357-362, 2012)

2014年7月4日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

自然災害や大事故発生時は、医療施設に傷病者が多数殺到することが予想されるが、特に災害拠点病院では、自らが被災していても患者を受け入れることが求められる。多数の傷病者が殺到する中では、通常の外來カルテや入院カルテを作る余裕はないが、トリアージタグでは診療経過を記入することができず、これらをつなぐ「災害時診療録」(以下、診療録)を作成した。それぞれの特徴は table 1 のようである。今回は診療録の試験的な運用の結果と有用性を報告している。

診療録が備えるべき条件は、

- ①簡潔で記載しやすい②傷病部位を視覚的に記録できる③処置内容を記載できる
- ④経過時間を追って記載できる⑤複数の医師・看護師が記載できる⑥紹介状に転用できる
- ⑦傷病者から離さない運用方法をとる

以上の、7項目である。また、二次トリアージのカテゴリー欄を設け、視覚的にわかりやすいように色付けを行った。

	トリアージタグ	災害診療録	入院カルテ
準備の時間	短い	短い	長い
病院 ID 番号	不要	不要	必要
災害時の記載しやすさ	△	○	×
継続的記録	×	◎	○
記録情報量	×	○	◎
傷病者への装着	○	○	×
複写の有無	あり	あり	なし
紹介状への転用	×	◎	×
認知度	○	△	◎

.table 1

診療録の使用訓練に際して、事前に説明会を行い、この中で診療録についての説明を行った。本部は災害対応病院レベル (DH) 3「受入」(table 2) と判断し、本部機能訓練、手術室訓練、外來対応訓練を同時進行で行う大規模な総合的訓練の中で診療録の運用を試みた。診療録はあらかじめボードに挟んだものを用意し、傷病者が搬入されて時点で記載を開始するよう誘導した。記載に関しては、大きな混乱や目立った記載漏れはなく、充実した記載ができ、傷病者への装着も問題なく行えた。

被災程度	DH レベル	院内			院外
		院内患者管理	被災患者受入	医療チーム派遣	
－	5 派遣	○	○	○	
－	4 解放	○	○	×	
＋	3 受入	○	○	×	
＋＋	2 閉鎖	○	×	×	
＋＋＋	1 避難	△	×	×	

.table 2

アンケートは医師2名、看護師8名より回答を得た。アンケートの結果(table 3)からは運用方法については理解でき、その有用性は確認できたが、書式としては使いづらく、改良が必要であると考えられる。また、実際の災害の場面では多くの傷病者が来院し、混乱した状況でははじめての書式ではほとんどのスタッフが戸惑うことが予想され、数百人単位での医療関係者に運用などの周知徹底することが重要だと考える。

診療録の書式は	使いやすい (ふつう)	使いにくい
	2名 (3名)	5名
運用方法について	理解できた	理解できなかった
	8名	2名 (両名とも説明会不参加)
有用性について	有用である	有用でない
	9名	1名

.table 3